

企業プロジェクト05

1.選せき式多段ポンプの断面。鉄とステンレスの圧接素材を加工する技術は同社ならではの、この組み立てられたポンプは、先導半導体製造に不可欠な液温調節装置「精密チャム」として組み込まれている。2.工場内にあった事務所が手狭になり、2023年に完成させた新社屋。3.北九州で技術を学んだ後、帰郷して同社を創業した頼本太さん。



顧客の要望に合わせて作る精密シャフト。太さや長さ、形、材質などが異なるシャフトを、毎月200種類以上、年間では1000種類以上製造している。手前の円柱形の部品は、精密嵌合部品のカラー。

よりてっこうしょ
有限会社頼鉄工所

【問合せ】

岡山市中区乙多見393-3 ☎086-279-1521

【公式HP】



「創業時から受け継ぐ、意欲的に新し
く、専務取締役の頼伸治さん。戦後、
国をあげての食料増産に向けた農業機
械の部品製造で再始動した同社は、そ
の後、船舶や工作機械の部品を経て、
一九八二年からモーターの軸を手がけ
るように。これが現在の精密シャフト
製作につながっていく。頼専務曰く、

焼け跡から立ち上がり、
技術と創意工夫で成長。

一九二六年、機械メーカーとして創
業した「頼鉄工所」。現在は、さまざま
な機械に用いられる精密シャフト製作
と研削加工の精度の高さや、顧客の要
望に応えるための創意工夫、それを支
える技術力で、多くの機械メーカーか
ら信頼を勝ち取っている。しかし、創業
からの一〇〇年を振り返ると、危機的
状況に陥ったこともあったという。
「最も大きな危機は、一九四五年の岡
山空襲。かくも職人たちが無事だっ
たので、再興できたと聞いています」
と、専務取締役の頼伸治さん。戦後、
国をあげての食料増産に向けた農業機
械の部品製造で再始動した同社は、そ
の後、船舶や工作機械の部品を経て、
一九八二年からモーターの軸を手がけ
るように。これが現在の精密シャフト
製作につながっていく。頼専務曰く、

い技術を取り込み、試行錯誤でニーズ
に応える姿勢で、着実に歩んできた結
果です」。

同社の製品は、新幹線や
東京スカイツリーにも。

曲がりを極力抑えながら一〇〇〇分
の一ミリ単位で仕上げることが難
しい、複合素材圧接シャフトの量産を
実現するといった、知識と柔軟な思考
、技術の確かさを証明してきた同社。二
〇〇一年には自社でホームページを立
ち上げ、顧客開拓するなかで、新幹線
に組み込まれる軸や東京スカイツリー
にも使用されているマグネットポンプ
シャフトの製作へと進化。シャフト
を製作する時に、まず声がかかるよう
な会社を目指したい」と、頼専務は意
欲を見せる。また、岡山県が設立した
水素関連技術や半導体関連のコンソー
シアムにも参加。そして、まだ実験段
階の高圧水素コンプレッサの部品を
はじめ、日々加工技術の研究開発を重
ねながら、関連企業とも活発に交流し
ている。「私たち三代目とともに、す
ばりな世代が事業承継に向け、がん
ばっています。一〇〇年先も、目立た
ずとも必ず社会に必要とされる、いわ
ば「真昼の星」として未来につないで
もらいたい」。頼専務は早くも四代目
の活躍に期待を寄せている。



精度を重視する同社では、手作業
でシャフトの外径を計測し、完成後
は光学機器で計測。計測器の目
盛は1000分の1mm。



05
「精密シャフト製作なら
僕らにも負けな」。

「100年の積み重ねで、



20歳から59歳まで、年齢も性別
も国籍もさまざまな社員たち。ベト
ナム人を受け入れたことで、平均
年齢が若い若返ったのさぞう。